

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	発達相談支援センターココベリ 児童発達支援	公表日	年 月 日
-------------	-----------------------	------------	-------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数、年齢幅、活動内容及び専門的支援の実施に応じ、職員の数配置や別室での活動対応等有効活用している	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		人員配置基準2名に対し保育士2名、児童指導員3名、言語聴覚士1名等児童分野での経験と専門性を備えた職員を配置している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		動線をイメージし、利用児童の発達特性に応じた小児用トイレ・手洗い場・整理棚を設置 また、気になるものを取り除く等構造化を進めている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日常の清掃、消毒を行い清潔な環境に気を付けている定期的な換気他、空気清浄機を導入し快適に過ごせるよう配慮している	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		主となる訓練室のほか、個別室を設けており、その日の利用者の状態により個別の部屋がいつでも使えるよう整えている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルを心掛け、日次、月次含めミーティングを行い、情報の共有を行っている 月次の利用の状況やイベントが分かるようボードの設定を行っており、抜け漏れがない対応を行っている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表による評価と好評を実施し、意向を把握した中で、ミーティング等で改善に努めている また、不足事項に関しては年度計画に盛り込むよう努めている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングの場において、意見や動向を必ず行い、業務の内容に変更が生じる際は広く意見を集約した上で決定している	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		相談・苦情解決委員会の中で、第3者設置を早々に検討し、マニュアルに反映していく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内部研修や外部研修を継続し、年間計画によるOFFJTやOJTを定期的にも実施している 新卒や新規職員に対しては入社時教育を実施している	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		2025年2月にHP上に掲載し、公表済	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者面談を行ったり、全職員間で定期的に話し合う等ニーズの把握や行動分析を行い、個別支援計画に結び付けている	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々または毎月のミーティング時に全職員で情報共有を行っており、アセスメントは職員全員で取り組み、課題や成長したところ等、今後に向けた計画案を決定している	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ミーティングでのアセスメントの意見や個別課題を照らし合わせ、個別支援計画に反映させた上で計画に沿った支援を実施している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		初回インテーク以外にアセスメントツールやサポートブックを使用し、共通化を実施 職員間で共通理解の基運用している	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに則した支援内容を個別支援計画に反映している 反映された計画は職員への周知他、保護者に対しても丁寧に説明するよう努める	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プログラムは週担当が主体に活動を決定し、行事計画はミーティングで決定している 活動内容や利用者数により、状況に応じた対応は都度共有している	

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	発達相談支援センターココベリ 児童発達支援				公表日	年 月 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		音楽療法、運動療法、感覚、知育、SST等日替わり交替わりとなるように設定し、内容も発達等に応じプログラム内容を改善している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		一人一人の発達や特性に応じ、個別・集団の課題を考慮し、個別支援計画に反映させている 尚、個別に関しては専門的支援実施計画書に基づき支援を実施している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前日の終礼時、または合間の時間を利用し、役割や担当、活動内容の確認を行っている 職員の動線や関わりに関しては、連携を意識しながら支援に取り組んでいる	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼時または日次ミーティング、個別記録を入力する際に情報共有を行いながら、気づきや評価に繋げている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個々が積極的に記録を取り、視点の違いや共有を行っている 日々のミーティング時に必要に応じ支援の検証も実施している	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		ミーティング日を設け、各職員より情報の聞き取りを行っている。記録の収集も含め一人一人違う視点から意見を集約し、取りまとめた上で計画に反映させている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や管理者、専門職等適任者を選んで出席している 育成面から一般職員の同席や体験の機会を増やしている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じた情報提供だけでなく、ケース会議に参加し、連携の強化に努めている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関連した機関は出来るだけ出席し、情報共有を行っている 園との情報共有ではZoomを利用し、事業所での様子や利用者への対応に関して意見交換を行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行先や保護者の要望に応じて情報提供を行っている またサポートブックを活用し、移行支援を行っている 必要に応じ、小学校の見学会等に参加し、意見の交換も行っている	系列事業所での移行支援が厳しいこともあり、移行先に対しても空き状況の要請や放デイの移行配慮に関して密に協力していく
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		今後意見交換やスーパーバイズの場面が増えていくことで、参加の機会は増えて行けばよいと考えている
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		交流の機会は園等の都合もあり、中々実現しない為、希望に応じ、オープンで見学や参観の機会は設けられるよう配慮している	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の送迎等、児童の状況や課題について話をする機会を設けたり、必要に応じてzoomを活用し、個別の相談時間も設けている	今後定期的に共有の機会を設けられるよう参観や相談会を継続していく	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	発達相談支援センターココベリ 児童発達支援				公表日	年 月 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		個別でのペアレントトレーニング形式が多かったため、参観の機会やイベントを企画し、広く保護者が参加できる機会を増やしていきたい		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達相談支援センターココベリ 児童発達支援					公表日	年	月	日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点					
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時丁寧に説明をおこなっている 支援プログラムは作成次第保護者へ共有を図っていきたい					
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		児童発達支援ガイドラインに則し、計画の作成に努めている					
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		担当者会議の中で、共有を図りながら個別支援計画の内容を説明することが多い 同意に関しては保護者にお伝えした中で同意をもらうよう対応している	相談支援との総合方針との兼ね合いがあり、事前に配布できるように検討課題としていく				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や希望等に応じ相談を実施している 非定期ではzoomによる事業所内相談や参観会を開催した	年間行事として、定期的な見学・相談会の開催を検討していく				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		行事等でマルシェの他、ココベリ運動会を開催した	保護者同士や兄弟が参加する機会は設定出来たが、交流の観点では課題と考えている為、継続して改善していききたい				
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れがあった場合、電話、面談等対応するよう努めている	保護者と接する機会が少ない為、定期的に相談や面談できる機会を継続していく				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		お便りを毎月発行し、行事予定や必要な連絡事項等の情報を発信している 連絡体制は緊急時を含み、法人携帯にて各保護者へ連絡し、対応している					
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報に関する契約と並行し、保管・管理を徹底、人権配慮から職員へ周知している	管理に関しては鍵付きキャビネットの要望を継続していく				
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個別での対応や連絡帳を使った情報共有を図り、伝達の配慮を行っている	その場での対応が難しい等配慮が必要なケースでは相談・参観等を設け真摯に対応・拜領していく					
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ココベリマルシェを開催し、保護者のみならず地域に対し開かれた運営を実施している						
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員に対しては、各委員会に配属させそれぞれの代表として研修や訓練に参加している	実施した訓練はお便りで保護者へ様子等を伝えているが、認知が低い為別途報告出来る機会や案内をしていきたい ※マニュアル類の周知方法を検討していく				
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		発生想定等今後委員会を有効活用し発生に備えた対応が出来るようにしていきたい					
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		保護者記入の緊急連絡先により把握し、必要に応じ聞き取りを行うことがある					
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現状医師の指示書をもっている児童はいない	緊急連絡先や保護者からの聞き取りにより必要に応じ服薬や投薬等の情報共有をお願いしていく				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		期初計画に基づき職員間の共有を行いながら、内・外部の安全管理の対応を行っている	保護者に対する周知方法を改めて検討していく				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		HP上に掲載している	認知度が低い為、引き続き周知方法の改善や取組の報告方法を改善していく				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット・事故報告書を作成し、ミーティングや委員会を通し、職員で情報を共有している シートを改善し、全職員で共有した際にはサインを書くように変更した					
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待・身体拘束防止委員会を中心にOFFJTやOJTで研修を定期的に行い、実践につなげている ※研修会を開催し、職員の意識向上につなげた						

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	発達相談支援センターココベリ 児童発達支援				公表日	年 月 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		原則禁止のもと、重要事項説明書に記載し、保護者へ説明を行っている		